

## 福井県教員育成指標とその活用について

福井県教育委員会

## 1 福井県教員育成指標の基本的な考え方

- 知識基盤社会に突入し、産業構造が大きく変化する中で、これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開や、学校現場の諸課題への対応力を図るためには、教員は向上心を持ち、学び続けることが必要である。

- 福井県においては、教育行政の指針を定めた「教育に関する大綱」の基本理念として、「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進～」を掲げ、育成することを目指す人間像として次の三つの姿を示している。

○自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人

○多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

○ふるさとや自然を愛し、いっどこにいても社会や地域に貢献する人

- また、教員については採用時から教職生活全体を通じて「学び続ける人」であることを求めており、その具体的な姿は次の通りである。

○校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

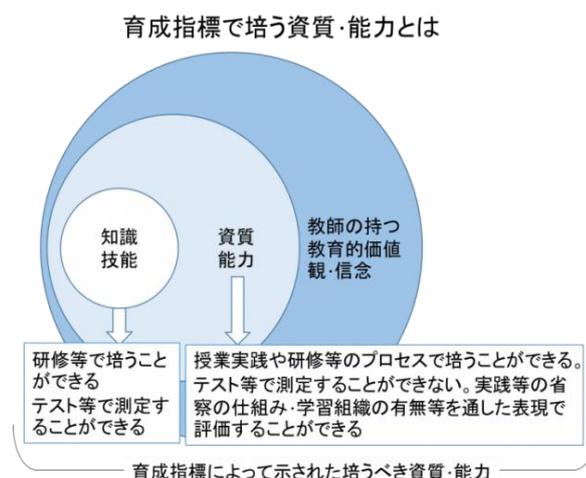
○専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

○子どもたちはもとより、同僚や保護者、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

○教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

- そこで県では、福井県教員育成指標（以下「指標」という。）を示し、これからの教員に求められる資質・能力を具体的に例示した。示した資質・能力は、研修等で直接習得することのできる知識・技能と、直接的な教示では習得が難しい、授業や研修のプロセスの中で培われる資質・能力とから構成されている。

- 特に、直接的に教示することでは習得が難しい資質・能力の中には、次期学習指導要領が示す「思考力・判断力・表現力」のように知識・技能の習得に関連して培われるものもあれば、「学びに向かう力」のように教員の持つ教育的な価値観や信念との関連の中で育まれるものもあり、その幅は広い。（右図参照）



- ・教員の資質・能力を育成するためには、研修の中で習得される最新の教育情報や知識・技能が、日々の実践の中で再確認されることが必要である。そのためには、それぞれの研修の中で、個々の実践に基づく振り返りの機会や、研修参加者が自分の実践と自らの教育的価値観等と突き合わせる機会を設けるとともに、研修相互の関係を明らかにした一体的な研修体系にすることが不可欠である。
- ・指標で示したステージは、採用時よりおよそ10年ごとを目安として設定している。まず、「福井県が求める採用時の姿」を示した上で、第1ステージは、「教員としての基礎を固める時期」、第2ステージは「中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する時期」、第3ステージを「経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする時期」として位置づけた。
- ・それぞれのステージでは、そのステージに応じて身に付け、発揮されるべき資質・能力がある。例えば、管理職になれば、若手を育成する能力、危機管理能力などは欠かせない能力であるが、このような能力は、管理職段階になって急に育成されるものではない。初任段階からの道のりの中で習得された知識・技能を基に、絶え間ない振り返りを繰り返すことで、資質・能力として身につくものである。

## 2 福井県教員育成指標の活用について

- ・今回示した指標を活用することによって、教員それぞれの適性或状況と、求められる資質・能力の関係を把握することができる。また、指標で示されたキャリアステージと資質・能力の関係を踏まえて、一人一人の教員が他者の実践事例も学ぶことで、他者の経験を自己の経験に意味づけて膨らませながら自らのPDCAサイクルを回すことができる。



- ・また、学校や研修における教員の資質・能力の育成のためのPDCAサイクルの成果は、絶えず育成指標の再構築に結びつかなければならない。そのためには県教育総合研究所を中心に、教員研修を行う各機関や各大学が、年度ごとに指標に基づいた研修成果の検証を行うとともに、その検証に基づいて次年度の教員研修計画の作成と育成指標の見直しを組織的に行うこととする。(上図参照)
- ・指標を一つの指針として、関係機関が連携して学校の教員集団を学び合う専門職集団にすることが、直接的に教示のできない教師の資質・能力を培う基盤となる。